

平成 26 年度 職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進
「職業実践専門課程」制度創設に伴う取組の推進事業

事業名

「インストラクショナルデザインおよびアクティブラーニングを
使いこなす教員養成研修モデルの開発・実証」

一般社団法人全国専門学校教育研究会

第 1 回 実施委員会／開発・実証委員会／評価委員会 合同委員会

日 時 平成 26 年 9 月 17 日（水） 13 時 00 分～15 時 30 分

場 所 アルカディア市ヶ谷 7 F 「妙高」

〒102-0073 東京都千代田区九段北 4-2-25 Tel:03(3261)9921

次 第

1 開 会

2 主催者挨拶

一般社団法人全国専門学校教育協会 会長 浦山 哲郎

3 文部科学省挨拶

文部科学省生涯学習政策局生涯学習課専修学校教育振興室

専門官 大坂 香織 氏

文部科学省生涯学習政策局生涯学習課専修学校教育振興室

係 長 春田 鳩磨 氏

4 委員紹介

5 議 題

(1) インストラクショナルデザインおよびアクティブラーニングを使いこなす
教員養成研修モデルの開発・実証事業概要の説明

(2) 採択時における事業評価および採択一覧

(3) インストラクショナルデザイン分科会 概要説明

(4) アクティブラーニング分科会 概要説明

(5) 今後のスケジュールについて

6 事務局連絡

7 閉 会

平成26年度

一般社団法人全国専門学校教育研究会

「職業実践専門課程」の推進を担う教員養成研修モデルの開発・実証

第1回 実施委員会/開発・実証委員会/評価委員会 委員紹介一覧

(順不同/敬称略)

	氏名	所属先	役職	委員会	
1	浦山 哲郎	一社) 全国専門学校教育研究会 学校法人浦山学園	会長 理事長	事業統括 実施委員長	
2	井本 浩二	一社) 全国専門学校教育研究会 専門学校 YIC グループ	副会長 代表	実施委員	
3	佐竹 新市	学校法人龍馬学園	理事長	実施委員	
4	安藤 喬	学校法人三友学園	常務理事	実施委員	
5	松井 祥高	学校法人利幸学園	専務理事	実施委員	
6	國分 義史	学校法人明倫館	理事長	実施委員	
7	山崎 彰	学校法人郷学舎	理事長	実施委員	
8	川崎 千春	学校法人新潟総合学院	常務理事	実施委員	
9	河原 成紀	学校法人河原学園	理事長	実施委員 評価委員	欠
10	中越 晃	学校法人九州国際学園	理事長	実施委員	
11	栗原 寛隆	学校法人栗原学園	理事長	実施委員	欠
12	川越 宏樹	学校法人宮崎総合学院	理事長	実施委員	欠
13	片岡 均	学校法人つくば総合学院	理事長	実施委員	
14	坪内 浩一	学校法人平成坪内学園	理事長	実施委員	
15	龍澤 正美	学校法人龍澤学館	理事長	実施委員	欠
16	山本 絵里子	学校法人山本学園	副理事長	実施委員	
17	鷺澤 文治	学校法人平青学園	専務理事	実施委員	
18	大平 康喜	学校法人穴吹学園	専務理事	実施委員	欠

19	大城 圭永	学校法人KBC学園	副理事長	開発実証委員 ID分科会委員	欠
20	中島 慎太郎	学校法人有坂中央学園	常務理事	開発実証委員 ID分科会委員	
21	龍澤 尚孝	学校法人龍澤学館	本部長	開発実証委員 AL分科会委員	欠
22	岡村 慎一	専門学校YICグループ	理事	開発実証委員 評価委員 ID分科会委員 AL分科会委員	
23	伊藤 慎二郎	学校法人穴吹学園	理事副校長	開発実証委員 AL分科会委員	
24	飯塚 正成	有限会社ザ・ライスマウンド	代表取締役	開発実証委員	
25	小野 紘昭	一財) 職業教育キャリア教育財団 啓明学園	理事 理事	評価委員	
26	石田 敬二	株式会社東京海上日動キャリアサービス	執行役員事業部長	評価委員	欠
27	齋藤 進	株式会社エデュースホールディングス	代表取締役	評価委員	
28	下島 耕一	鹿児島情報ビジネス専門学校	本部長	事務局	
29	花田 香央理	鹿児島情報ビジネス専門学校		事務局	
30	永井 真介	学校法人浦山学園 富山情報ビジネス専門学校	校長	開発実証委員 事務局	
31	加藤 香菜子	学校法人浦山学園 富山情報ビジネス専門学校	学事課	事務局	
32	飯塚 久仁子	有限会社ザ・ライスマウンド		事務局	

<代理出席>

	芦澤 昌彦	学校法人河原学園	自己点検評価室室長		
	栗山 重隆	学校法人宮崎総合学院	教務部推進本部長		
	福田 稔	学校法人穴吹学園	理事		

※ ID分科会委員=インストラクショナルデザイン分科会委員

※ AL分科会委員=アクティブラーニング分科会委員

職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進 平成26年度「Ⅰ. 学校評価の充実」(又は、「Ⅱ. 「職業実践専門課程」の推進を担う教員養成研修モデルの開発・実証」、「Ⅲ. 「職業実践専門課程」に係る取組の推進 (i) 「職業実践専門課程」の実態等に関する調査研究」、若しくは、「Ⅲ. 「職業実践専門課程」に係る取組の推進 (ii) 「職業実践専門課程」の各認定要件等に関する先進的取組の推進」)事業計画書

文部科学省生涯学習政策局長 殿

所在地 892-0842
鹿児島県鹿児島市東千石町19-32

法人名 一般社団法人
全国専門学校教育研究会

(学校名)

代表者 会長 浦山 哲郎 印
職氏名

職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進 平成26年度「Ⅰ. 学校評価の充実」(又は、「Ⅱ. 「職業実践専門課程」の推進を担う教員養成研修モデルの開発・実証」、「Ⅲ. 「職業実践専門課程」に係る取組の推進 (i) 「職業実践専門課程」の実態等に関する調査研究」、若しくは、「Ⅲ. 「職業実践専門課程」に係る取組の推進 (ii) 「職業実践専門課程」の各認定要件等に関する先進的取組の推進」)の事業計画書を提出します。

1. 事業の概要

(1) 事業のテーマ インストラクショナルデザインおよびアクティブラーニングを使いこなす教員養成
研修モデルの開発・実証
(全角40字以内)

(2) 事業実施期間 委託を受けた日から平成27年3月13日まで

(3) 事業の概要 (200字程度)

職業実践専門課程として職業実践的教育を行う上で、企業・業界が求める汎用的な能力向上を行うための教育課程の編成や演習・実習の授業運営を行う教員のコアスキルとして、最も効果的かつ効率的な教育を設計・開発技法を習得するための研修プログラムを開発・実証する。

また、グループ学習を行う上でメンバー間でコミュニケーションをとったり互いに助け合ったりする授業手法を教員に身に付けさせるための研修プログラムを開発・実証する。

2. 事業内容の説明

(1) 事業実施の成果目標 (事業の成果物を明示して具体的に記載)

本事業は、職業実践専門課程を担う教員のスキル向上のための研修モデルの開発である。本年度開発する研修プログラムは、分野を問わず教員として必ず持つべき以下の2つのスキルを習得する。なお、当会の会員法人は複数分野にまたがる学校を設置しているため、広く異分野の教員に講座に参加を呼びかけプログラム内容を精査する。

①インストラクショナルデザイン研修プログラムの開発

『学習プログラムのデザイン』のプロセスを重視し、教育ニーズや学生にマッチした「わかりやすく効果的な授業」のストーリーの設計ができるスキルを習得し、既存のプログラムを客観的に評価・分析する視点を身につけることを目的とした、教員研修カリキュラム・シラバス、教材および研修実施マニュアルを開発する。開発は研修プログラムを検討するための分科会を設置し内容を取りまとめる。また、開発した研修プログラムは本年度中に実証する。

②アクティブラーニング研修プログラムの開発

一方的な教示法から言語活動の充実と思考力・判断力・表現力の育成を教育目標に掲げた授業運営を行う能動的学習形態を実践できる教員を養成するための研修カリキュラム・シラバス、教材および研修実施マニュアルを開発する。開発は研修プログラムを検討するための分科会を設置し内容を取りまとめる。また、開発した研修プログラムは本年度中に実証する。

(2) 事業の内容について（(1) を達成するための方法を具体的、詳細に記載）

①会議

●実施委員会

目的：事業の進行状況や予算執行管理等を統括する
体制：専門学校代表者、研修事業者、有識者等 18名体制
開催回数4回（9月、11月、12月、2月）
会場：東京

●開発・実証委員会

目的：各分科会で検討された研修プログラムの内容確認および実証・評価を担当する。
体制：専門学校代表者、研修事業者、有識者等 9名体制
開催回数5回（9月、10月、11月、12月、2月）
会場：東京

●評価委員会

目的：本年度開発する2つの研修プログラムについて、企業目線で評価する。
体制：専門学校代表者、企業・団体代表者 5名体制
開催回数2回（12月、2月）
会場：東京

●インストラクショナルデザイン分科会

目的：インストラクショナルデザインを学ぶための研修プログラムを開発する。
体制：専門学校代表者、研修事業者、有識者等 9名体制
開催回数5回（9月、10月、11月、12月、2月）
会場：東京

●アクティブラーニング分科会

目的：アクティブラーニングを学ぶための研修プログラムを開発する。
体制：専門学校代表者、研修事業者、有識者等 9名体制
開催回数5回（9月、10月、11月、12月、2月）
会場：東京

②実証

インストラクショナルデザイン実証講座

目的：本事業で開発したインストラクショナルデザインを学ぶための研修プログラムを検証する
日程：12月、12時間
会場：東京
規模：20名

アクティブラーニング実証講座

目的：本事業で開発したアクティブラーニングを学ぶための研修プログラムを検証する
日程：12月、12時間
会場：東京
規模：20名

③成果のとりまとめ等

成果物および事業成果報告書（事業の実施内容及び分析結果）の公開、関係機関への配布

規模：600冊（印刷規模）
手法：データのHPでの公開、専門学校・専修学校関連団体等500冊程度を配布。

成果報告会の実施

日程：2月、3時間
会場：東京
規模：20名

(3) 事業終了後の方針について（成果の活用、継続性、発展性 等）

- ①教材および実証講座を収録した動画は、ホームページで公開する。
- ②教材等は本会を中心として研修を実施し、毎年改善・フォローアップする。
- ③可能な限り複数の場所での本研修プログラムを継続的に実施していくための体制を整備する。
- ④次年度は、本年度開発する教材の基礎的知識を学習するためのe-learningを開発し、広範囲に提供する。
- ⑤次年度は、授業運営に必要な教員コンピテンシーを調査し、さらに必要な派生的な研修モデルを提案する。

(4) 事業実施における特記事項について

今後、他の教員研修プログラムとも連携を図り、職業実践専門課程の質向上となりうる教員認定基準整備に発展できるよう、柔軟かつ計画的な取組みを行う。また、本事業で開発する2つの研修プログラムは、教員認定基準を整備する際に全ての教員の必須研修として位置付ける。なお、例年、本会では、専門学校教職員を対象とした専門知識研修プログラム等を年間十数回、300名程度規模で実施しており、今後これらの既存研修とも接続して、教員の体系的認定基準策定を目指す。

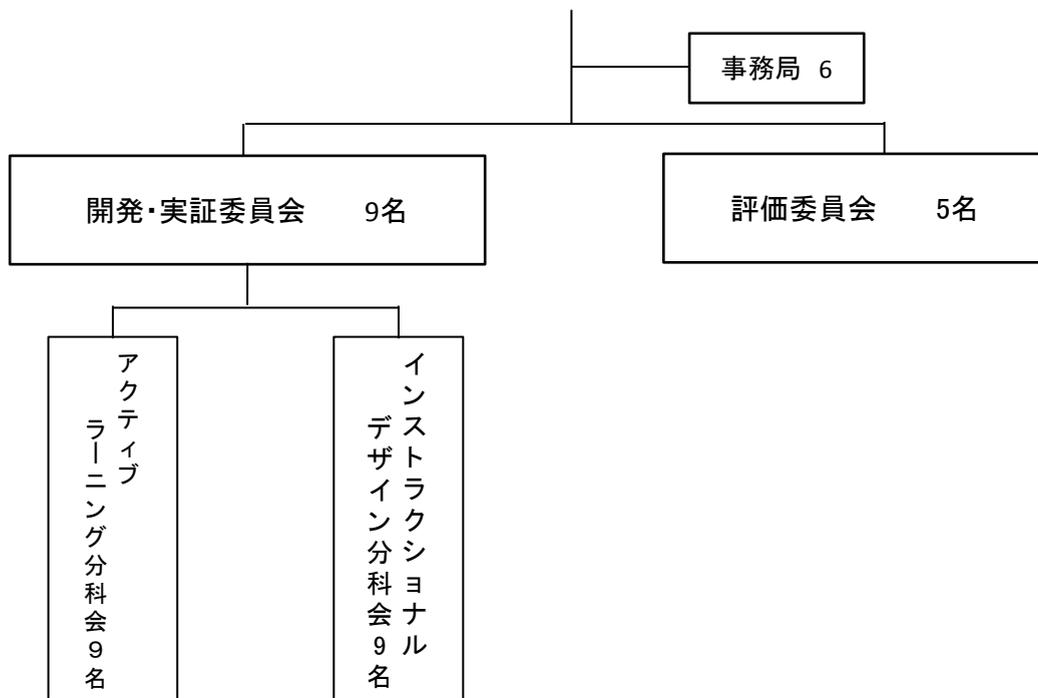
3. 事業のスケジュール

内容	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	合計
実施委員会		○		○	○		○	4回
開発・実証委員会		○	○	○	○		○	5回
評価委員会					○		○	2回
インストラクショナルデザイン分科会		○	○	○	○		○	5回
アクティブラーニング分科会		○	○	○	○		○	5回
インストラクショナルデザイン実証講座					○			1回
アクティブラーニング実証講					○			1回
成果報告会							○	1回
事務局会議	○	○	○		○		○	5回

4. 事業実施体制			
(1) 事業実施者の構成			
氏名	所属・職名	役割等	所属機関のURL
浦山 哲郎	一社) 全国専門学校教育研究会 会長 学校法人浦山学園 理事長	事業統括 実施委員長	http://www.urayama.ac.jp/
井本 浩二	一社) 全国専門学校教育研究会 副会長 専門学校Y I Cグループ 代表	実施委員会	http://www.yic.ac.jp/
佐竹 新市	学校法人龍馬学園 理事長	実施委員会	http://www.ryoma.ac.jp/
安藤 喬	学校法人三友学園 常務理事	実施委員会	http://www.oic-ok.ac.jp/
松井 祥高	学校法人利幸学園 理事長	実施委員会	http://www.rkg.ac.jp/
國分 義史	学校法人明倫館 理事長	実施委員会	http://www.alec.ac.jp/
山崎 彰	学校法人郷学舎 理事長	実施委員会	http://www.arsnet.ac.jp/
川崎 千春	学校法人新潟総合学院 常務理事	実施委員会	http://mydreams.jp/index.html
河原 成紀	学校法人河原学園 理事長	実施委員会	http://www.kawahara.ac.jp/
中越 晃	学校法人九州国際学園 理事長	実施委員会	http://www.cosmet.ac.jp/
栗原 寛隆	学校法人栗原学園 理事長	実施委員会	http://www.kurihara.ac.jp/
川越 宏樹	学校法人宮崎総合学院 理事長	実施委員会	http://www.msg.ac.jp/
片岡 均	学校法人つくば総合学院 理事長	実施委員会	http://www.tsg.ac.jp/
坪内 浩一	学校法人坪内学園 理事長	実施委員会	http://www.tsubouchigaku.ac.jp/
龍澤 正美	学校法人龍澤学館 理事長	実施委員会	http://www.tatsuzawa.ac.jp/
山本 絵里子	学校法人山本学園 副理事長	実施委員会	http://www.yamamotogaku.ac.jp/
鷺澤 文治	学校法人平青学園 専務理事	実施委員会	http://www.heisei.ac.jp/
大平 康喜	学校法人穴吹学園 専務理事	実施委員会	http://www.anabuki.ac.jp/
永井 真介	富山情報ビジネス専門学校 校長	開発・実証、事務局	http://www.bit.urayama.ac.jp/
大城 圭永	学校法人KBC学園 副理事長	開発・実証	http://www.kbcgroup.jp/
中島慎太郎	学校法人有坂中央学園 常務理事	開発・実証	http://www.chuo.ac.jp/
龍澤 尚孝	学校法人龍澤学館 本部長	開発・実証	http://www.tatsuzawa.ac.jp/
岡村 慎一	専門学校YICグループ 理事	開発・実証	http://www.yic.ac.jp/
三宅 英明	専門学校YICグループ 総合支援部長	開発・実証	http://www.yic.ac.jp/
伊藤慎二郎	学校法人穴吹学園 理事	開発・実証	http://www.anabuki.ac.jp/
信岡 誠三	学校法人穴吹学園 副校長	開発・実証	http://www.anabuki.ac.jp/
飯塚 正成	有限会社ザ・ライスマウンド 代表取締役	開発・実証、事務局	http://www.trm-net.co.jp/
下島 耕一	鹿児島情報ビジネス専門学校 理事	事務局	http://www.kbcc.ac.jp/
花田香央理	鹿児島情報ビジネス専門学校	事務局	http://www.kbcc.ac.jp/
加藤香菜子	富山情報ビジネス専門学校	事務局	http://www.bit.urayama.ac.jp/
飯塚久仁子	有限会社ザ・ライスマウンド	事務局	http://www.trm-net.co.jp/

(2) 事業実施協力機関等 (企画実施委員会、有識者会議、コンソーシアム等の構成を記載)		
名称【開発・実証委員会】		
団体名、機関名等	具体的な協力方法	団体等のURL
専門学校Y I Cグループ	委員長1名、委員1名の参加。委員長として委員会の取りまとめを行う。	http://www.yic.ac.jp/
学校法人穴吹学園	副委員長1名、委員1名の参加。副委員長として委員会の取りまとめを行う。	http://www.anabuki.ac.jp/
学校法人K B C学園	委員1名の参加。インストラクショナルデザインの開発・実証の取りまとめを主に行う。	http://www.kbcgroup.jp/
学校法人有坂中央学園	委員1名の参加。インストラクショナルデザインの開発・実証の取りまとめを主に行う。	http://www.chuo.ac.jp/
学校法人龍澤学館	委員1名の参加。アクティブラーニングの開発・実証の取りまとめを主に行う。	http://www.tatsuzawa.ac.jp/
学校法人浦山学園	委員1名の参加。アクティブラーニングの開発・実証の取りまとめを主に行う。	http://www.bit.urayama.ac.jp/
有限会社ザ・ライスマウンド	委員1名の参加。アクティブラーニングの開発・実証の取りまとめを主に行う。	http://www.trm-net.co.jp/
名称【評価委員会】		
団体名、機関名等	具体的な協力方法	団体等のURL
一財) 職業教育・キャリア教育財団 /学校法人啓明学園	委員1名の参加。開発された教員養成研修モデルの評価・検証を行う。	http://www.sgec.or.jp/
株式会社 東京海上日動 キャリアサービス	委員1名の参加。開発された教員養成研修モデルの評価・検証を行う。	http://www.tcshaken.co.jp/
株式会社エデュース ホールディングス	委員1名の参加。開発された教員養成研修モデルの評価・検証を行う。	http://www.educe-hd.jp/
学校法人河原学園	委員1名の参加。開発された教員養成研修モデルの評価・検証を行う。	http://www.kawahara.ac.jp/
専門学校Y I Cグループ	委員1名の参加。開発された教員養成研修モデルの評価・検証の取りまとめを行う。	http://www.yic.ac.jp/
(3) その他下部組織等 (設置は任意)		
名称【インストラクショナルデザイン分科会】		
団体名、機関名等	具体的な協力方法	団体等のURL
株式会社ウチダ人材 開発センタ	3名の参加。インストラクショナルデザインの開発担当。	http://www.uhd.co.jp/
一社) 日本産業訓練協会	委員1名の参加。インストラクショナルデザインの開発・実証の取りまとめを主に行う。	http://www.maroon.dti.ne.jp/san/
専門学校Y I Cグループ	委員2名の参加。インストラクショナルデザインの開発・実証の取りまとめを主に行う。	http://www.yic.ac.jp/
学校法人K B C学園	委員1名の参加。インストラクショナルデザインの開発・実証を行う。	http://www.kbcgroup.jp/
学校法人有坂中央学園	委員1名の参加。インストラクショナルデザインの開発・実証を行う。	http://www.chuo.ac.jp/
学校法人浦山学園	委員1名の参加。インストラクショナルデザインの開発・実証を行う。	http://www.bit.urayama.ac.jp/
名称【アクティブラーニング分科会】		
団体名、機関名等	具体的な協力方法	団体等のURL
AL&AL教育研究所	3名の参加。アクティブラーニングの開発担当。	http://www.sanno.ac.jp/
株式会社CRI中央総研	委員1名の参加。アクティブラーニングの開発・実証の取りまとめを主に行う。	http://gcri.co.jp/
学校法人穴吹学園	委員2名の参加。アクティブラーニングの開発・実証の取りまとめを主に行う。	http://www.anabuki.ac.jp/
学校法人龍澤学館	委員1名の参加。アクティブラーニングの開発・実証を行う。	http://www.tatsuzawa.ac.jp/
専門学校Y I Cグループ	委員1名の参加。アクティブラーニングの開発・実証を行う。	http://www.yic.ac.jp/
学校法人浦山学園	委員1名の参加。アクティブラーニングの開発・実証を行う。	http://www.bit.urayama.ac.jp/

(4) 事業の推進体制 (図示)



5. 文部科学省との連絡担当者 (事業責任者/事務担当者)

氏名	下島 耕一		
所属・役職	一社) 全国専門学校教育研究会 事務局		
郵便番号	892-0842	所在地	鹿児島県鹿児島市東千石町19-32
電話番号	099-223-8400	FAX番号	099-223-6139
E-mail	shimo@kbcc.ac.jp		

一般社団法人全国専門学校教育研究会
会長 浦山 哲郎 殿

文部科学省生涯学習政策局
生涯学習推進課専修学校教育振興室

平成26年度「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」事業
の審査結果について

日頃から専修学校教育の振興に多大なるご尽力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、先般、企画提案書をご提出いただきました、平成26年度「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」事業について、外部有識者で構成される審査委員会による厳正なる審査の結果、貴団体のご提案については、以下のとおりとなりましたのでお知らせいたします。

事業名	インストラクショナルデザインおよびアクティブラーニングを使いこなす教員養成研修モデルの開発・実証
審査結果	採択
評価点 (採択基準：2.0点以上)	2.40 点
審査員による意見等	<ul style="list-style-type: none">・実施体制は整備されていると認められるが、研修内容について具体的な構想を記述してほしい。・申請書では、分野を問わず共通に教員として持つべきスキルの実習プログラムの開発を目的としている。評価の観点に「研修教材を複数分野を対象として作成」とあり、私見としても、分野による違いを考慮しなくてよいか、との懸念もある。今後の普及を考えると、各学校が取り組みやすい様に分野ごとの違いに関する一定の考慮も必要ではないか。委員候補の学校は多くの分野を開設しているので、学校から選出される委員に期待する。予算を見ると、教材開発費が多くなっているが、各分科会とも、業者任せにならぬようしてほしい。・インストラクショナルデザイン研修プログラムにせよ、アクティブラーニング研修プログラムにせよ、大学や一般の専修学校においても必要な教員研修であろう。なぜ「職業実践専門課程」の教員養成研修モデルとして行うのか、その根拠が弱い。特記事項にあるように、同会では専門学校教職員研修プログラムを年間十数回行っているようであるが、それらとの違いは何か。・他のセクター、プログラムで考慮されていない職業実務卓越性を探究し、その向上のための独自の研修モデルを提示頂きたい。

なお、事務処理等の都合上、採択金額及び事務局意見等については、追ってお知らせいたします。

【本件問い合わせ先】

文部科学省生涯学習政策局生涯学習推進課
専修学校教育振興室専修学校第一係（春田・江森）
〒100 - 8959 東京都千代田区霞が関3 - 2 - 2
T E L : 03 - 5253 - 4111 (内線 2915)
F A X : 03 - 6734 - 3715
E-mail : syosensy@mext.go.jp

事業費
18,974,630円

「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」事業

採択一覧(平成26年7月11日採択)

No.	事業区分	事業名	実施機関
1	I. 学校評価の充実	専修学校の質保証・向上に資する「学校評価実践の手引き」の作成	株式会社三菱総合研究所
2	II. 「職業実践専門課程」の推進を担う教員養成研修モデルの開発・実証	インストラクショナルデザインおよびアクティブラーニングを使いこなす教員養成研修モデルの開発・実証	一般社団法人全国専門学校教育研究会
3	III(i) 「職業実践専門課程」の実態等に関する調査研究	職業実践専門課程に係る取組の推進～「職業実践専門課程」の実態等に関する調査研究～	みずほ情報総研株式会社
4	III(ii) 「職業実践専門課程」の各認定要件等に関する先進的取組の推進	ファッション分野における職業実践専門課程の質保証の評価を推進する事業	学校法人文化学園文化服装学院
5	III(ii) 「職業実践専門課程」の各認定要件等に関する先進的取組の推進	情報・IT系職業実践専門課程における教員研修と第三者評価基準の構築	学校法人岩崎学園情報科学専門学校
6	III(ii) 「職業実践専門課程」の各認定要件等に関する先進的取組の推進	ゲーム・CG分野職業実践型教育推進プロジェクト	学校法人中央情報学園早稲田文理専門学校
7	III(ii) 「職業実践専門課程」の各認定要件等に関する先進的取組の推進	職業実践専門課程の美容分野における質保証・向上を推進するための学校評価制度の開発と構築	学校法人メイ・ウシヤマ学園ハリウッドビューティ専門学校
8	III(ii) 「職業実践専門課程」の各認定要件等に関する先進的取組の推進	介護福祉士に特化した第三者評価システムの構築	学校法人敬心学園日本福祉教育専門学校
9	III(ii) 「職業実践専門課程」の各認定要件等に関する先進的取組の推進	理学・作業療法の職業実践専門課程の認定要件・第三者評価等に係る先進的取組の推進	学校法人福田学園大阪リハビリテーション専門学校
10	III(ii) 「職業実践専門課程」の各認定要件等に関する先進的取組の推進	自動車整備専門学校における職業実践専門課程の第三者評価	学校法人土岐学園専修学校中部国際自動車大学校
11	III(ii) 「職業実践専門課程」の各認定要件等に関する先進的取組の推進	職業実践専門課程における教育活動等の質保証・向上を図るため、より効果的、先進的な取組みとしての柔道整復師養成分野に係る第三者評価システムの構築	特定非営利活動法人私立専門学校等評価研究機構

インストラクショナルデザイン研修プログラムの開発

1. インストラクショナル・デザイン（体系的カリキュラム・シラバス作成）について

より分かりやすく効果的に教育目標を達成するためのカリキュラム及びシラバスの作成手法

アメリカで開発された、教育を短期間で効率よく、効果的に行う手法で、学生にとってより分かりやすく、且つ効果的に学べるカリキュラム及びシラバスを作成するための手法として、「インストラクショナル・デザイン（以下、「ID」と略します）」という理論があります。

- ① IDとは、教育を科学的に分析し、短期間に効率的・効果的に人材を育成する手法で、教員の属人的な能力に頼らず、一定の教育品質を保証するように教育を設計・提供するための方法論であり、「分析→設計→開発→実施→評価（ADDIEモデル）」のサイクルを標準化したモデルを用い、学習効果の高いコースをデザイン・開発するためのシステムティックな技法です。
- ② 経験のある教員であれば、長年の経験からよい教育を設計して実施しているかもしれないが、それを経験の浅い教員でも設計して実施できるようにするものがIDです。従来、担当教員個人に依っていたカリキュラム及びシラバスの組み立てが、IDの手法を用いることで、学生や他の教員に分かりやすいものになります。“その授業はどこへ向かっているのか?” また“無事目的地に辿り着けたか?” 等が明確なカリキュラム及びシラバスを設計することが出来るようになります。学習課題に応じた分析手法を用いてより良い授業を組み立て、確実に学習目的を達成することを目指します。

2. 「インストラクショナル・デザイン」の重要性

- ① 高等教育の質保証では、各学生の知識・技術等の習得度を高め、教育目標・目的を達成する観点から、体系的なカリキュラムの編成は重要な要素です。
- ② 実践的な職業教育を行う専門学校には、演習・実習等をはじめ産学連携による多様な教育方法を活用し、目標とする人材像に必須の科目群を設定すること、授業の進め方やスキルの評価基準等を可視化したシラバスの作成が要請されています。
- ③ 私立専門学校等評価研究機構の評価基準^{注1}にも、カリキュラム・シラバスに関連する項目が多数設定され、自己点検・評価の対象として重要視されています。
注1：カリキュラム・シラバスに関連する基準は、「基準3 教育活動」で中項目9・小項目26、「基準4 教育成果」で中項目4・小項目10を設定。

3. 「インストラクショナル・デザイン」開発プロセス

IDにおいて、授業や教材を設計する際は、ADDIEモデルと言われる以下のプロセスで行う。まず受講者の前提、教育の目標を分析により明らかにするところから始めて、設計、開発、実施、評価、という改善のサイクルを回すことによって適切な範囲、レベルで効率的な教育を設計することができるのである。

分析 Analyze → 設計 Design → 開発 Develop → 実施 Implement → 評価 Evaluate



IDの第一原理(メリル)

Problem-centered	問題中心	学習は、学習者が現実世界の問題を解決することに取り組むときに促進される
Activation	活性化	学習は、学習内容と関連する過去の経験が活性化されたときに促進される
Demonstration (Show me)	実演	学習は、単に学習内容を情報として伝えるだけではなく、実演するときに促進される
Application (Let me)	適用	学習は、学習者が新しい知識やスキルを問題解決のために用いるように求められたときに促進される
Integration	統合	学習は、学習者が新しい知識やスキルを日常生活の中に統合することを奨励されたときに促進される

ARCS,ARCS-V モデル(ケラー)

カテゴリーと定義		引き出すための質問
Attention: 注意	受講者の興味をひき、学習への好奇心を刺激する	どうすれば学習経験を刺激的で興味深いものにできるだろうか？
Relevance: 関連性	積極的な態度を引き出すために、学習者のニーズや目標を満たす	どうすれば学習経験が生徒にとって価値あるものになるだろうか？
Confidence: 自信	学習者が自分は成功する、あるいは成功の可否をコントロールできると信じられるように支援する	どうすればインストラクションを通じて学習者が成功したり成功の可否をコントロールしたりできるように支援できるだろうか？
Satisfaction: 満足感	(内的、外的な)報酬によって達成を強化する	生徒が学習経験に対してよい感情をもち、学習を続けたいと思うように支援するために何ができるだろうか？

ガニエの9教授事象

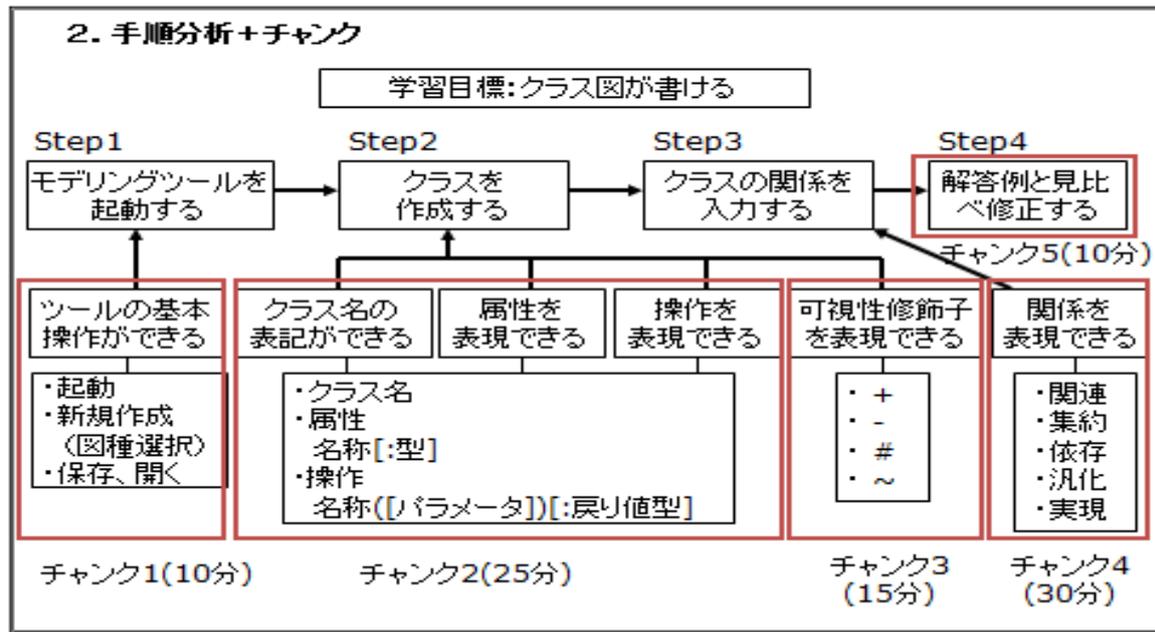
Gaining and controlling attention	学習者の注意を喚起する	言葉、ジェスチャー、イラスト、アニメーションなどにより、学習内容に興味を持たせる
Informing the learner of expected Outcomes	授業の学習目標を伝える	主に言葉コミュニケーションによって、学習の結果何ができるようになるかを伝える
Stimulating recall of relevant capabilities	前提条件を思い出させる	以前学習していて今回の学習内容にも関連する知識やスキルを思い出させる
Presenting the stimuli inherent to the learning task	新しい事項を提示する	新しいことを学習するための手掛かりとなるものや比較対象などを刺激として提示する
Offering guidance for learning	学習の指針を与える	主に言語コミュニケーションによって学習成果が達成されるように学習者の思考を方向付ける
Providing feedback	フィードバックを与える	学習によって新しくできるようになったことが正しいかどうかを伝える
Appraising performance	学習の成果を評価する	学習目標にそった基準によって、学習の成果を評価する
Making provisions for transferability	学んだことを応用する準備をする	学習したことを幅広く活用できるようにするために、事例を提供する
Insuring retention	学習内容を確実に記憶させる	学習内容を記憶させるために、実践や能力活用のための準備をする

上記のような考え方で授業を設計することにより、魅力的な授業とすることができる。

4. 「インストラクショナル・デザイン」の研修項目（案）

研修テーマ	研修項目
①講義・GW- インストラクショナル・デザイン(ID)とは	<ul style="list-style-type: none"> ○IDの概要、E-learningとの関わり ○何故IDを用いて教えるのか？－教員としての姿勢－ ○現在の自分の授業・姿勢についてディスカッション ○IDの活用事例（学校での活用事例、企業での活用事例） ○学習システム（カリキュラム、シラバス、教材等）の設計・開発手順 ○今の自分の学校の目標・カリキュラム・シラバスについてディスカッションする
②講義・演習- 学習目標について	<ul style="list-style-type: none"> (1) 目標と目的の違いを知り目標とは何か明確にする (2) 目標の明確化の3つのポイントである「目標行動／評価条件／合格基準」を知り、実際にそのポイントの含まれた目標を作成、修正が行えるようになる (3) 目標設定の良い例・悪い例から明確化のためのポイントが含まれているかを判別できるようにする【演習】目標例の修正
③講義・演習- 目標の種類と効果測定	<ul style="list-style-type: none"> (1) 授業における目標の分類を学び、自らの行う授業が何を目標とするのかを明確にする（言語情報、知的技能、運動技能、態度） (2) IDにおけるテストの位置付けを知り、どこに辿り着けば達成となるのかを授業で明確にできるようにする (3) IDにおける効果測定方法の1つとして、テストとその種類を知り、実際に3種類のテストを組み立てられるようにする（前提／事前／事後）【演習】目標の分類と設定
④講義・演習- 目標と分析方法	<ul style="list-style-type: none"> (1) 目標の要素を見極める (2) 目標の分析による目標のブレイクダウン・詳細化を行えるようにする (3) 分析結果による目標の見直しを行い、ADDIEモデル・PDCAモデルにより目標を修正できることを確認する【演習】自分の担当する授業の目標の分析
⑤講義・演習- カリキュラム・シラバスの作成法	<ul style="list-style-type: none"> (1) カリキュラム・シラバスの実例 (2) 大目標から分析を行い、小目標に分解していくことによりカリキュラムが作成できることを確認する (3) 設定した小目標に対し時間を設定することによりカリキュラム・シラバスを作成する
⑥演習・プレゼンテーション-総合演習と発表	<ul style="list-style-type: none"> 【演習】目標の設定、分析からカリキュラム・シラバスの作成 【演習】作成したカリキュラム・シラバスの発表 ○フィードバックと修正 ○演習により作成した目標・カリキュラム・シラバスについてディスカッションする

5. 分析・設計した一事例



以上

平成 26 年 9 月 16 日
 インストラクショナルデザイン分科会 委員
 岡村 慎一

アクティブ・ラーニング研修プログラムの開発

アクティブ・ラーニング とは

教員が一方向的に知識を教える「講義型」ではなく、学生自らが課題を解決したりプレゼンテーションをしたりする授業。「能動的学習」と言われる。中央教育審議会が公表した「審議まとめ」は、主体的な人材は「受動的な学修経験では育成できない」とし、求められる教育は「アクティブ・ラーニング」による双方向の授業と位置づけている。学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である。 (文部科学省／朝日新聞 より)

アクティブ・ラーニング分科会 委員の紹介

小林 昭文 (こばやし あきふみ) 略歴

産業能率大学 経営学部 教授／日本アクションラーニング協会認定シニアコーチ



埼玉県公立高校教諭として25年間勤務したのち、2013年3月に定年退職し、2014年4月より本職に就きました。高校教諭時代には、カウンセリング、コーチング、アクションラーニング(質問会議)、メンタリングなどを学んで、教育相談、キャリア教育、授業改善などに力を注いできました。特に2007年度から、当時は不可能と言われていた高校物理の授業を「アクティブラーニング(能動的学習)型授業(AL型授業)」にすることに成功し、その研究・実践・啓発活動を続けています。大学ではAL型授業の基礎スキルとなっているアクションラーニング(質問会議)を軸として「リーダーシップベーシック」「リーダーシップアドバンス」「ロジカルシンキング実践」などの授業を担当します。これらに共通した目的は、学生諸君が授業・研究・サークル活動・アルバイトなどの体験を振り返り、気づき、よりよい行動を実践することを通して、チームとして動く力・傾聴する力・質問する力などを鍛えることです。それが新しい時代のリーダーシップ・スキル・トレーニングにつながります。単なる就活対策のみならず10～20年後に組織の中核として活躍する皆さんの社会人としての基礎力向上を目指します。

アクティブ型授業に必要なものとは？

「アクティブラーニング型授業」を進めるのに必要な教師のスキルの1つが「ファシリテーション力」であり、「質問力」です。私はカウンセリングやコーチング、メンタリング等を学んできましたが、最も有効なのが「マーコード方式のアクションラーニング(質問会議)」だと感じています。単に、授業の質的向上を図るだけでなく、教師の指導者としての各種の資質向上、学校の組織開発、更には学習者の学習能力の向上にも活用できます。

平成26年度

一般社団法人全国専門学校教育研究会

「職業実践専門課程」の推進を担う教員養成研修モデルの開発・実証

今後のスケジュールについて

	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	合計
実施委員会		○		○		○	○	4回
開発・実証委員会		○	○	○		○	○	5回
評価委員会		○				○	○	3回
インストラクショナルデザイン分科会		○	◎(2回)	○	○		○	6回
アクティブラーニング分科会		○	◎(2回)	○	○		○	6回
実証講座					○			1回
成果報告会							○	1回
事務局会議	○	○	○		○		○	5回

1. 実施委員会 / 開発・実証委員会

《実証委員会議題》

第2回：プログラム開発方針検討と決定

第3回：プログラム開発進捗、実証講座開催（実施委員会と合同）

第4回：実証講座結果報告（実施委員会と合同）

実施委員会	開発・実証委員会	日 程（候補）			時 間
—	第2回	10月24日(金)	10月23日(木)	10月20日(月)	
第2回	第3回	11月12日(水)	11月13日(木)	11月14日(金)	14:00～16:00
第3回	第4回	1月13日(火)	1月14日(水)	1月15日(木)	14:00～16:00
第4回	—	2月6日（第130回例会同日）			

2. 実証講座 ※全12時間を予定

日 程	
	平成26年12月 12日(金)・13日(土) または、 平成26年12月 18日(木)・19日(金)

3. 評価委員会

第1回	平成27年1月合同委員会の前後に実施予定。
第2回	平成27年2月6日（第130回例会同日）

4. 分科会（決定）

	インストラクショナル分科会	アクティブラーニング分科会
第2回	平成26年10月10日(金)	
第3回	平成26年10月30日(木)	
第4回	平成26年11月10日(月)	
第5回	平成26年12月8日(月)	平成26年12月15日(月)

※原則午後開催